

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

認定こども園 きつずこくらみなみ

1. 本園の教育目標

遊びを通して

- 自分の好きな遊びを見つけて友達としっかりと遊べる子ども
- 自分のことが楽しく話ができる子ども
- 自分の思いを楽しく表現できる子ども
- 人の話を聞くことができ、考えられる子ども
- 自分からあいさつができる子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

昨年に引き続き、コロナ禍の中、保護者、職員、子ども達の感染防止に努め、昨年の保育の内容や行事の在り方を見直し、子ども主体の保育を考え計画する。

保護者会主催の行事の中止・延期の理解を図り、教師間のコロナ禍の保育についての話し合いや共通理解を密にとりながら保育計画を進めていく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	取り組み状況
1	保育について	昨年に引き続き、個人やグループや縦割りでの小さな集団での保育の中で一人ひとりにあった指導ができた。新しい生活様式と共に新しい保育の在り方を昨年の経験をもとに保育が取り組めたと同時に通常の生活スタイルに戻す努力をした
2	行事への取り組み (保護者理解)	行事に関しても昨年同様、分散や短縮などの工夫をし、行事の参加人数等は事前のアンケートを実施し、人数を把握した上、検温・消毒など感染対策を徹底してすべて開催できた。保護者主催に秋祭りや餅つきは保護者不参加で職員と子ども達で行った。しかし、感染拡大と共に学級閉鎖、行事の延期等などで保育の見通しを立てるのがとても難しく苦労したが、その都度メールなどで配信し、保護者の理解度につながった
3	教師の保育の質の向上	今までの行事や保育を新しい生活・保育スタイルを自ら考えて保育にいかせた。感染拡大の為学級閉鎖等を経験し、当事者にしか分からない苦労や悩み、健康の大切さを改めて感じられ感染対策・自己管理の徹底も図れた。

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

課題について、コロナ過での新しい生活スタイルから、通常の生活スタイルに徐々に戻していく努力が必要で、全教職員が共通認識し、自己点検・自己評価に取り組むことで自ら保育を振り返り、今年の保育・行事を基本に園との発信も含め、保護者に理解・協力を得て、共に成長し合っていきたい。

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	衛生・安全管理	感染症対策・地震・水害・避難・犯罪などに備え日常的に話し合いをもち危機意識を高め向上を図る。保護者を含めた避難けいこを実施する。
2	地域との連携 (幼小の連携)	地域に愛される園を目指して、地域の実情、保護者のニーズ、子どもの実態を踏まえて連携強化する。コロナ過で自粛していた小学校とも積極的に声をかけ連携を図る
3	教職員間の協力	異年齢との関りや幼児と教師の連携を充実し、常に個々の成長を把握し、協力を願い保育に役立てる。

6. 学校関係者の評価

コロナ禍で園行事や活動が思うように行えない中で、園関係者が園児たちの思いを作るため、工夫しながら保育を行っていただいた。また、ひとつひとつの行事や保育にきちんとした意図的な目的がみられた。「こういう力を育てたい」という考え方を持ち、それに活動に反映していただいた。保護者会としての運営が今年度までは感染対策も兼ねて中止・延期だったので来年度は活動的に動き、保護者も一緒に子育てを楽しんでいけたらと思う。